

科目	応用物理 (Applied Physics)		
担当教員	熊野 智之 准教授		
対象学年等	機械工学科・4年D組・後期・必修・1単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	極小の世界や光速の世界といった”非日常的”な世界の物理法則を、現代物理学の誕生・発展の過程と共に学習し、定性的に理解できる能力を養う。また、それらの諸法則が”日常的”に恩恵を受けている最先端のテクノロジーの礎となっていることを、応用例を学習しながら理解する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】X線の発生原理と結晶解析への応用について理解できる。		X線の特徴および発生原理を理解し、X線が材料の結晶構造を解析するために用いられる理由を理解しているか中間試験と提出物で評価する。
2	【A2】黒体放射理論の基礎、光の粒子性について理解できる。		黒体放射とは何かを理解し、アインシュタインの光量子仮説が提唱されるに至った背景および光電効果やコンプトン散乱の結果の意味を理解しているか中間試験と提出物で評価する。
3	【A2】原子の内部構造について理解できる。		各原子モデルについて、それぞれの特徴および提案されるに至った背景を理解しているかを中間試験と提出物で評価する。
4	【A2】ボーアの理論と水素原子スペクトルの関係が理解できる。		ボーアの理論の意味と水素原子の発するスペクトルとの関係などについて理解できているかを中間試験と提出物で評価する。
5	【A2】量子論および量子力学について、基本的な概念が理解できる。		不確定性原理やシュレディンガー方程式の成り立ちを理解しているかを定期試験と提出物で評価する。
6	【A2】素粒子および加速器について、基本的な事柄が理解できる。		加速器の仕組みおよびアインシュタイン-ド・ブロイの関係式について理解できているかを定期試験と提出物で評価する。
7	【A2】特殊相対性理論について、基本的な概念が理解できる。		ガリレイ不変性や特殊相対性理論の基礎概念を理解しているかを定期試験と提出物で評価する。
8	【A2】核エネルギーについて、基本的な概念が理解できる。		基本的な核反応、核分裂、核融合について理解しているかを定期試験と提出物で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	講義資料 「高専の応用物理」：小暮陽三編（森北出版）		
参考書	「物理学（三訂版）」小出昭一郎（裳華房）		
関連科目	物理，3年応用物理，専攻科レーザー工学		
履修上の注意事項	低学年の物理および3年の応用物理をよく理解し、履修すること。難易度がやや高いので、予習復習を心掛けること。		

